

## ミナ ヘルナンデス 米国出身の元キリスト教徒 (下)

:

明:米国人改宗者による回 。第2部。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ア ミナ ヘルナンデス

日7 Jul 2015

集日 26 Jul 2015

息子の父は服役していたため、私は息子のためにきちんとした人生を 努力をしまし  
た。私は母と教会に通い始めました。弟が 家を れた数ヵ月、彼は全身にベ ルをまとっ  
た妻を れてきました。そしてその数ヵ月、彼女は男 を妊娠しました。私は新しい  
理の 妹と 切にしようと心がけたものの、今思うと私は自分自身の生き方を じており、  
彼女の慎ましさを受け入れることができませんでした。そうした私の 度にも わらず、  
私にイスラ ムを 介し けてくれた彼女の忍耐と情 に してアッラ が祝福してくださいませ  
ように。弟もまた、友人を家に 来てきて母とイスラ ムについて をしていました。この  
男性は、弟以外に私が会った最初のムスリムで、彼による は、私とその存在を全く知  
らなかった自分の新たな一面を引き出しました。そのムスリム男性は、常に明るい光  
るを放っていました。今となれば、彼の にはヌ ル (光、 き) があったからだと分かり  
ますが、その当 は彼の を直接 ることは ずかしさのあまりできませんでした。彼が する  
ときは必ず、私はより多くの衣服で身体を覆ったものでした。彼による影 はとても大  
きかったことから、今日も私は彼の安全と幸福のためにドウア (祈 ) しますが、それ  
以来彼を ることはありませんでした。当 、私には付き合っていた男性がおり、彼は し  
く 任感があるように えました。それから弟の家族が私と息子、そして母が暮らしてい  
た母の家に引っ越してきました。私の婚 者は 日私を れていました。甥っ子が生まれる  
数ヶ月前、私は全く会 も何もない状 になるまで 理の妹と 状 であったため、弟家族はア  
パ トに引っ越してしまいました。それから私は婚 者と 婚し、私たちも母の家から引っ

越しました。

甥っ子の 生、そして私の 婚、私はまた弟家族を れるようになりました。私は彼らの家族生活と家庭内の平 さに心を打たれました。 理の妹は、私と息子が したときは出来る限りもてなしてくれ、イスラ ムについても 山 してくれました。しかし夫は弟のことが に入らず、彼に面と向かって、また彼の でも彼を蔑む 言を り返し、私は屈辱感に苛まれました。このことは 婚生活に 裂をもたらし、夫は私を かせてくれもしなかったため、私は弟の家で多くの を ごすようになりました。しばらく つと、私は 理の妹のベルに 味をもつようになり、彼女の感じているプライバシ の心地良さというものを理解するようになりました。また、その生地も私が常に思い んでいたような抑 的かつ暑さを助するものではありませんでした。夫にベルの着用を示唆すると、彼は私を嘲りました。彼はいつも私があらわな姿をしていることを め、「セクシ」な妻と一 にいることは彼をいい にさせましたが、私は周りから敬意を感じることはありませんでした。 婚から数ヵ月、そして教会での洗礼 式から かー、彼は浮 をしていること、そして 婚生活を わらせたいという意志を明らかにしました。私の人生は再び修 の 相を呈し、私は息子と母のいる 家に ることになりました。

もちろん、私は 理の妹とより多くの を ごすことになりました。弟家族だけが、夫に 放された私をサポートしてくれました。私が通っていた教会は、夫が浮 をする原因はその妻にあるのだといつも言っていました。また彼らによると、私は仕事を探したり（夫から外出 可を得ていたにも わらず）家から外出すべきではなく、夫の 宅を忍耐 く待たずに彼 きの を ごすことは罪だと主 していました。教会は、私が神による「夫の心 わり」を待つことのできるよう、息子の衣食やオムツを提供してはくれませんでした。彼らは に私を判断していたのであり、そのことは私を非常に悲 的にさせました。弟家族は私が息子の世 をしなくてはならないこと、そして私の 婚生活が わったことを理解してくれていました。彼らは私が一 に住むことを提案してくれ、私が仕事に行くことのできるよう、息子の子守りまでしてくれました。彼らは 婚 婚 女性の 利におけるイスラム的 点について教えてくれました。私はいわゆる「マゾヒスト的宗教」が、 には教会よりも 的であり私の苦境に理解を示しているということを し、非常に きました。

不幸にも、私が弟に一 に住む用意ができたことを告げようとする前に、弟家族は思いもよらない引っ越しを余 なくされました。彼らが落ち着いた 、 理の妹は私に手 を いてを取ってくれました。その 数ヶ月、私の人生は依然として混沌としており、そのことにうんざりした私は、自分自身の生き方をしようと 心しました。弟の元上司だったムスリムを つけた私は、彼に私と息子を弟の家に れて行ってくれるよう み みました。彼は喜んで じてくれ、道中ではクルア ンの英 を ませてくれました。この人物は非常に 切かつ礼 正しく、息子にも配 を示してくれました。彼は 婚を申し んでくれましたが、私はショックを受け、 をくれるよう求めました。彼はことなく弟の家まで送ってくれ、仕事に って行きました。

弟家族との暮らしは想像していたよりも辛いもので、私たちは非常に しい生活を余 なくされました。しかし私はシャハ ダ（信仰宣言）をし、一日5回のアザ ンが き渡る、ムスリムたちが多く暮らす町に住むことができました。その当 は多くの も抱えていましたが、美しい思い出ばかりで恋しいです。弟夫妻はウドウ（お清め）や礼 の仕方、神への称念など、ムスリムとして知っておくべきことのすべてを教えてくださいました。

やがて私は 家に り、息子のために仕事を探してよりよい生活をさせてやる必要に迫られました。私はヒジャ ブとニカ ブ（部のベル）の着用を止め、仕事をつけるために必要なことをしなければなりませんでした。私の基本的モラルは向上し、自分がムスリムである とりを持って言うことができましたが、ムスリムとして生活することについては大きな困 を 出していました。地元のムスリムコミュニティは密接なものではなく、私の改宗前の 去が知れ渡ってしまったことから、残念ながら 妹たちは私との会 を避けていました。アルハムドゥリッラ、私はインタ ネットへの接 がある仕事をつけ、イスラ ムについての情 を 索したり、本を 入したりしました。そうして私はヒジャ ブやニカ ブも 入するようになりましたが、 ではヒジャ ブの着用を められませんでした。ネット上で多くのムスリマの友人を作り、自分だけの小さなコミュニティを きました。また、新しい夫も つけました。自分の忍耐力の弱さ、そして特定の 格な から、その 婚生活も失 に わり、彼との 婚を求めました。彼と れた 、私は再びヒジャ ブやニカ ブをしなくなり、徐々に奔放な生活に って行きました。そのことを しながら、一 全くと言って

良いほどイスラ ム的な生活からは ざかってしまいました。今も、その夫と留まっていたならいかに人生が好 していたかと考えたりもしますが、アッラ は のことをお望みだったのでしょうか。

私はまた、ある男性と出会いました。彼は 切で しく 大で、私は恋に落ちました。ただ、彼はムスリムではありませんでした。私は自分がムスリムであることを正直に打ち明け、ムスリム男性としか 婚できない旨を えました。私が再びヒジャ ブを着け始めると、彼はそれを受け入れました。彼はシャハ ダをしてイスラ ムに改宗し、私たちは 婚しました。しばらくして、私はまたインタ ネットに接 できる仕事をつけるという祝福があり、ムスリム 妹たちとのコミュニティを再び きました。私は遂に、常々やりたかった 活 を始めることができました。ネット上の 妹らの援助によって、私はイスラ ムの逸 や 事を き始めました。私の雇用主も、私が社会奉仕においてもたらしたイスラ ム的 点と においてもらたした秩序を感じてくれました。彼らは私のヒジャ ブの着用を喜び、非ムスリムとして可能な限りの援助を惜しみませんでした。

私は努力を けているものの、人生は容易ではありません。私は他人と同じように苦し、には信仰心が消え入るように思えます。しかし、すべての物事はアッラ の御手に委ねられており、私が自らのナフス（自我）と い け、アッラ に う限りは、かれは私を守ってくれるということを忘れないようにしています。私は世界中にムスリマの友人がいるという祝福を授かっていますので、インシャ アッラ 、いつの日か、 い信仰者たちの共同体に移住できればと思っています。アッラ が私の弟を通して私を真 へとお き下さったことを忘却することは不可能であり、私はそうした祝福が特 のものであると しています。 はイスラ ムについて することを好みませんが、私はこうした恩 について し合うことのできる家族がいるということだけで祝福されているということを知っています。私は自分の文章によってアッラ を称 し、他者がその道を んでくれることをドウア しています。それは、幸福と良き人生の唯一の道 イスラ ム なのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/2799>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。